

# 財団法人京都市社会教育振興財団 設 立 趣 意 書

京都が日本のなかのもっとも伝統ある歴史の都であり、国際的にも屈指の文化の都市であることは周知のところでは、たしかに京都は、延暦13年（794年）いらい、実に千余年におよぶ日本の伝統をうけつぎ、古代から現代にいたる文化の華をつぎつぎと結実させてきました。文化相の古さ、深さ、広さばかりでなく、国際的なつながりをもちながら、つねに新しい文化を創造してきた千年の都とよぶにふさわしい内実を保有しています。

その基盤となり前提となったエネルギーは、京都の町の人々や市民のたゆみなき町づくりへの努力やくらしの向上をめざしての創意と工夫のなかに培養されてきました。しかし、その貴重な文化をたんなる遺産として継承するのみでは、千年の都の栄光はしだいに形骸化して、優越仮感の域を出ないものになりかねません。

とりわけ生涯を通じての自己啓発をつづけ、社会のあらゆる面で自己の能力を発揮し、お互いの連帯感を高めて、個性の喪失、人間疎外、地域連帯意識の減退などを克服してゆくことは、今日における京都の活力を充溢させるために、きわめて重要な課題となっています。京都の歴史と文化にそくした社会教育の振興が強く要請されてきた所以も、そのことと密接な関係があります。祖先の歩みに学んで、京都の社会教育を整備し充実して、未来への展望あふれる京都を建設してゆくことは、いまの市民にとって急務といわざるをえません。

京都市が社会教育の中心的な施設として社会教育総合センターと図書館を設置するのも新しい社会教育への願いとその課題に応えようとするためであります。これらの施設は、市民の自発的な学習意欲をもりあげ、清新な学習活動を積極化し、京都の新しい文化の創造に活用されることが期待されます。

社会教育総合センターと図書館がこうした期待に応えていくには、京都市民の自由で清新な発想を反映し、魅力的な社会教育事業を積極的に推進する各界各層の英知の結集が不可欠となっています。

このたび「財団法人京都市社会教育振興財団」を設立し、各界各層からのご協力を賜って、財団による充実した企画と運営を行い、もって所期の目的を達成したいと発起しましたのも、社会教育総合センターと図書館を生きた社会教育の場たらしめ、京都の新しい文化を創造するのに寄与するためであります。「財団法人京都市社会教育振興財団」の設立は、必ずや京都の文化の飛躍的發展に貢献すると確信します。